

2021年1月18日

最大拡大倍率 135 倍の光学ズームにより、拡大観察性能が向上
光学拡大機能付き大腸ビデオスコープ「CF-XZ1200 L/I」を発売

オリンパス株式会社（取締役 代表執行役 社長兼 CEO:竹内 康雄）は、光学拡大機能付き大腸ビデオスコープ「CF-XZ1200 L/I」を2021年1月21日（木）から日本国内で発売します。

本製品は、従来製品^{※1}の最大拡大倍率 95 倍を上回る 135 倍^{※2}の光学ズームを搭載しています。より高倍率の拡大観察によって、大腸病変の高精細な診断をサポートします。また従来の面順次式^{※3}よりも処理速度の速い高速面順次^{※4}の採用により、動きの早い腸の蠕動運動などに対しても色ずれが軽減されたなめらかな画像取得を可能にしました。

※1 大腸ビデオスコープ CF-HQ290Z

※2 4K 対応 LCD モニター OEV321UH 使用時。

※3 面順次式とは、赤(R)・緑(G)・青(B)の光を順次に出射させて映像を作り出す方式。

※4 高速面順次はEVIS X1ビデオシステムセンター OLYMPUS CV-1500との接続時のみ可。

■ 発売の概要

販売名	発売予定日
大腸ビデオスコープ OLYMPUS CF-XZ1200 シリーズ	2021年1月21日

■ 主な特長

1. 最大 135 倍の高倍率化と、高感度 CMOS イメージセンサー採用による高画質の実現
2. 高速面順次の採用により、色ずれが少なく、よりなめらかな画像取得を実現
3. 新型操作部「ErgoGrip」採用により、術者のユーザビリティ向上



大腸ビデオスコープ OLYMPUS CF-XZ1200 シリーズ

製造販売元はオリンパスメディカルシステムズ(株)です。

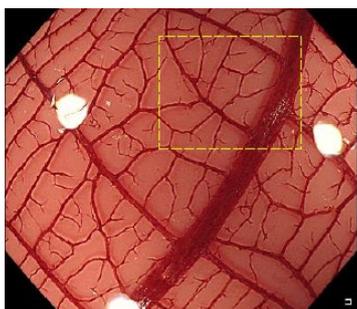
■ 発売の背景

大腸がんは、国内がん死亡数第 2 位・罹患数第 1 位と、近年増加傾向にあります。一方、大腸がんは早期段階で発見された場合 90%以上が完治すると報告されており、内視鏡検査による早期発見・治療が重要です。大腸がんなどの病変の詳細を観察するには微細な血管や粘膜の模様を観察する必要があり、高倍率での観察が重要です。本製品は最大 135 倍の拡大観察が可能で、粘膜の表面を高精細に観察することができ、より確実かつ効率的な診断をサポートします。なお、本製品は 2020 年 7 月に日本国内で発売した内視鏡システム「EVIS X1」シリーズのスコوپラインアップのひとつです。当社は、本製品をはじめとした、独自技術の実現により、世界中の内視鏡医のサポートを行い、患者さんの負担軽減と内視鏡診断・治療の質的向上を目指します。

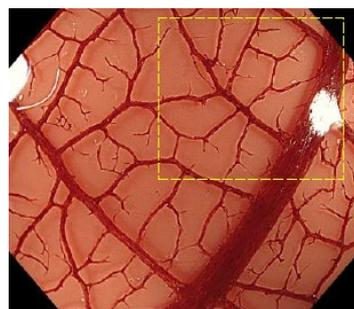
■ 主な特長の詳細

1. 最大 135 倍の高倍率化と、高感度 CMOS イメージセンサー採用による高画質の実現

最大拡大倍率 135 倍の光学ズームを搭載し、対象病変を高倍率で観察することが可能です。これにより、さらに微細な粘膜模様や血管走行の観察のサポートを実現しました。また、高感度 CMOS イメージセンサーを採用しているため、ノイズが少なくハイビジョンを上回る高画質（HQ 画質）で観察することができ、さらに質の高い拡大診断をサポートします。



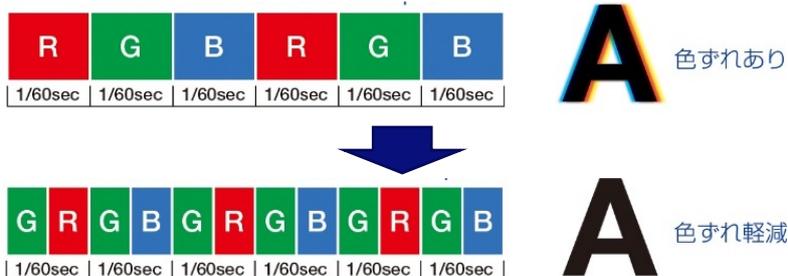
従来製品 (CF-HQ290Z)
(CV-290 と OEV321UH との組み合わせ)



CF-XZ1200
(CV-1500 と OEV321UH との組み合わせ)

2. 高速面順次の採用により、色ずれが少なく、よりなめらかな画像取得を実現

本製品の撮像方式は高速面順次を採用しています。毎秒 120 回の高速点灯により、3 色の光が切り替わる際に生じる色ずれを軽減させ、よりなめらかで高品質な画像取得を実現します。



従来製品 (上) CF-XZ1200 (下)

3. 新型操作部「ErgoGrip」採用により、術者のユーザビリティ向上

より優れたユーザビリティを追求した、新たな操作部「ErgoGrip」を搭載しました。軽量化に加え、アングルノブ設計・スコープスイッチ形状・ボタン位置などを見直すことで、術者にとって操作性の向上・検査時のストレス低減に貢献します。



本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。

オリンパスの内視鏡事業について

オリンパスの内視鏡事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者のみなさまとともに歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康や QOL 向上に貢献してまいります。1950 年に世界で初めてガストロカメラを実用化して以来、オリンパスの内視鏡事業は成長を続けており、現在では、軟性内視鏡、硬性鏡、ビデオイメージングシステムから、システムインテグレーション、修理サービスに至るまで、様々な製品・サービスで医療に貢献しています。詳しくは www.olympus.co.jp/ をご覧ください。